昨年覇者リトジャン撃破も…ミスに泣いた
ペガサスボーイズ準V

次戦リベンジ誓う

ペガサスボーイズは準々決勝で前年覇者・リトルジャイアンツ（葛飾）を破り、準決勝では、「太地が一番投げやすい」という島谷陸＆太地の兄弟バッテリーで、特別延長を含む9イニングを投げきり、勢いに乗り勝ち上がってきたが、決勝では力を出し切ることができず準優勝に終わった。

この日は平日で、谷中雅治監督は仕事のため欠席。指揮官不在で行われた決勝は「監督に教わってきた自分たちのプレーを心掛けた」と島谷留維主将。だが、2回までに2失点、さらに3回無死三塁の場面で島谷陸が継投したが「気持ちが空回りしていた」と2被安打2死球の乱調で3点を献上。「流れを止められなかったのが悔しい」と左腕は序盤で5失点を悔やんだ。

「敗因は初回の失点と走塁ミスですね」と監督を代行した鎌田豊コーチ。島谷留主将は「自分たちも小技を使える野球を目指してきて、同じタイプで守っていていやだった」と振り返り「同じ事ができれば相手にとっても驚異だと思うのでしっかり調整したい」と王座決定戦でのリベンジを誓った。

準優勝のペガサスボーイズ

“三つ子”島谷競演 王座決定戦ラスト

⑪…「帝京高出身の母が高校野球が好きで、一緒に観戦していて」と母・留美さんの影響があったと話すのはペガサスの“三つ子”。長男の島谷陸、次男・太地、三男・留維は、小学2年の時、新宿の学童チーム「新宿ドリーム」でそろって野球を始めて8年、「今では3人で出ているのが普通だね」とうなずきあう。今回、兄弟初となる都大会の決勝へ駒を進めたものの、決勝で敗れ準優勝に終わった。進学は別々の高校を希望しているため、兄弟競演で最後のチャンスとなる王座決定戦で有終Vを狙う。

島谷三兄弟。（左から）次男・太地、長男・陸、三男・留維

▽決勝
早稲田実業中 1130000―5
ペガサスボーイズ 0000000―0

（早）今井佑哉、小野寺広樹（ペ）中西涼介、島谷陸－島谷太地

【早稲田実業中】	打	安	点
中 陸	4	1	0
遊 蒼海	4	3	0
左 鳥壮輔	3	2	0
投 樹哉	3	1	0
捕 洋寺	3	0	0
三 広佑	3	0	1
右 太輝	3	2	1
一 井晋	3	2	0
二 田浦併	3	3	1
右 大	1	1	1
左	1	0	0
代	1	0	0
代	1	0	0
代	1	0	0
代	1	0	0
代	1	0	0
残	4	0	0
振	5	2	1
球	1	0	0
犠	2	1	0
併	4	0	0
残	4	0	0
振	5	2	1
球	0	0	0
犠	1	0